

日本語・日本事情教育部門

I 教育活動

1. 大学院入学前予備教育コース
2. 短期留学プログラム日本語コース
3. 全学向け日本語コース
4. 共通教育科目・日本語日本事情科目

II 研究活動

1. 2005年度日本語教育学会第5回研究集会報告（於：福井大学）

I 教育活動

1. 大学院入学前予備教育コース（2006年度より日本語研修コースに改称）

《概要》

本コースは、本学及び福井県とその近隣にある大学の大学院に進学する国費留学生に対して、6ヶ月間の日本語集中授業を行うコースである。留学生に対し、日本で生活する上で必要な日本語力、及び研究を行う上で必要な基礎的な日本語力を養成することを目的とする。文法・文型 10時間（1時間：90分）を基本として、会話、漢字、作文、情報処理、文化の各技能クラスを開講している。

コース修了時の修了発表会では、各学生がスライドを用いて日本語によるスピーチを行う。2005年度修了発表におけるスピーチのテーマは以下の通り。

< 4期 2005年度前期 >

私の国ミャンマー

アオン・ミョ・カイン（ミャンマー）

< 5期 2005年度後期 >

ペルー

シルレイ・トレス（ペルー）

メキシコへいきましょう

ホセ・カストロ（メキシコ）

コスタリカのしょうかい

シルビア・コブ（コスタリカ）

フィリピンと陽電子放出断層撮影

カテリーン・マンダブ（フィリピン）

ようこそラオスへ

サンティ・ブンジャンパサット（ラオス）

サワディバンコク

ティッパワン・ダムラック（タイ）

《受講者》

	2005年前期	2005年後期	合計
ミャンマー	1		1
タイ		1	1
ペルー		1	1
フィリピン		1	1
コスタリカ		1	1
メキシコ		1	1
ラオス		1	1
アラブ首長国連邦		1	1
合計	1	7	8

科目名一覧並びに時間割

《2005 年度前期》

科目名	担当教員	教科書	受講者数
日本語 (文型・文法)	山中和樹・桑原陽子 加藤敬子・敷田紀子	『みんなの日本語初級』 (第1課～第25課)	1名
日本語 (会話)	中島清	『みんなの日本語初級』 (第1課～第25課)	1名
日本語 (作文)	山中和樹	『みんなの日本語初級やさしい作文』	1名
日本語 (漢字)	澤崎幸江	『みんなの日本語初級 I 漢字英語版』	1名
日本語 (情報処理)	桑原陽子	プリント	1名
日本語 (日本文化)	膽吹覚 勝木禮子 (書道) 堀川覚右衛門 (俳画) 上田美代子 (華道) 廣谷幸子 (華道)	プリント	1名

《時間割表 2005 年度前期》

	月	火	水	木	金
1	日本語 ¹⁾ (文型・文法)	日本語 (文型・文法)	日本語 (文型・文法)	日本語 (文型・文法)	日本語 (文型・文法)
2	日本語 (文型・文法)	日本語 (文型・文法)	日本語 (文型・文法)	日本語 (文型・文法)	日本語 (文型・文法)
3	日本語 (情報処理)	日本語 (漢字)	日本語 (作文)	日本語 (会話)	日本語 ²⁾ (文化)

1) 月曜日から木曜日までの1時限目(4コマ)は、全学向け日本語コース日本語1と合同。

2) 短期留学プログラムの学生と合同。

《2005 年度後期》

科目名	担当教員	教科書	受講者数
日本語 (文型・文法)	桑原陽子・加藤敬子・敷田 紀子・澤崎幸江	『みんなの日本語初級』 (第1課～第32課)	7名 ¹⁾
日本語 (会話)	中島清	『みんなの日本語初級』 (第1課～第32課)	6名
日本語 (漢字)	今尾ゆき子	『みんなの日本語初級 I 漢字英語版』	6名
日本語 (情報処理)	桑原陽子	プリント	6名
日本語 (日本文化)	膽吹覚 勝木禮子 (書道) 堀川覚右衛門 (俳画) 上田美代子 (華道) 廣谷幸子 (華道)	プリント	6名

* 「日本語 (作文)」は不開講。

1) 1名は国費留学生 (大学推薦) であり、午後の技能クラスには出席せず、午前中のみ出席であった。

《時間割表 2005 年度後期》

	月	火	水	木	金
1	日本語 (文型・文法)	日本語 (文型・文法)	日本語 (文型・文法)	日本語 (文型・文法)	日本語 (文型・文法)
2	日本語 (文型・文法)	日本語 (文型・文法)	日本語 (文型・文法)	日本語 (文型・文法)	日本語 (文型・文法)
3	日本語 (情報処理)	日本語 (漢字)		日本語 (会話)	日本語 (文化)

《結び》

2005年度は、前期に1名、後期に7名、計8名の国費留学生を受け入れた。本コースの課題とその解決策について以下にまとめる。まず、前期の受け入れ学生が1名だけであり、1名のためにコースを開設し15時間の授業を開講することは大変困難であった。全学向け日本語コースや短期留学プログラムの学生との合同授業で解決を図ったが、留学生センターの予算、講師の配置、学習者の心理的負担の点から考えて、問題が多いことは事実である。今後は、前期の留学希望者には後期まで渡日を延期してもらい、本コースの受け入れを後期のみ限定することを強く希望する。

次に、国費留学生（大学推薦）の学生の受け入れについてである。昨年度まで、本コースは国費留学生（大使館推薦）の学生に限定されていたが、学生からの強い希望があり、2005年度後期に初めて大学推薦の国費留学生を受け入れた。多様な学習者がクラスにいることは、学習効果の点からも非常に良いと考えられるので、今後も受け入れを歓迎したい。受け入れを円滑に行うため、2006年度に向けて、国際課留学生係と相談の上、指導教員との連絡等の手続きを整理し、受け入れ体制を整えた。

(桑原陽子)

2. 短期留学プログラム日本語コース

《概要》

このコースは、福井大学と交流協定を締結している大学等から受け入れている短期留学プログラムの学生が共通科目として受講する日本語コースである。日本語・日本事情系と伝統産業系が開講されており、日本語・日本事情系科目10単位、伝統産業系科目2単位が必修となっている。このコースを希望する留学生は学期初めに行なわれるプレースメントテストを受け、その結果により受講可能なクラスが決定される。2005年度から、「話す・聞く・読む・書く」のさらなる向上を目指し、「はじめての漢字」「はじめての作文」「はじめての会話」の技能別クラスを新たに開講した。

《前期科目一覧》

科目	教 員	教 科 書	受講者
初級	今尾ゆき子・加藤敬子	『みんなの日本語Ⅰ』	5名
初中級	山中和樹・敷田紀子 高瀬公子	『みんなの日本語Ⅱ』	8名
中級	膽吹覚・澤崎幸江	『テーマ別 中級で学ぶ日本語』	3名
はじめての漢字	澤崎幸江	『みんなの日本語Ⅰ 漢字 (英語版)』	3名
はじめての作文	山中和樹	『みんなの日本語初級やさしい作文』	2名
はじめての会話	中島清	『みんなの日本語Ⅰ』	5名
日本事情2	膽吹覚	The way of life in Japan (VTR)	3名
伝統産業2	中島清	プリント	5名

《前期時間割》

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1限		日本事情2			
2限	初級	初級	初級	初級	
	中級	中級	中級	中級	
3限		はじめての漢字	はじめての作文	はじめての会話	伝統産業2
4時	初中級	初中級	初中級	初中級	

〈前期受講者数〉

科目 \ 国名	中 国	韓 国	バ ン グ ラ デ シ ュ	シ リ ア	パ キ ス タ ン	ポ ー ラ ン ド	小 計
初級	4	0	1	0	0	0	5
初中級	5	0	0	1	1	1	8
中級	2	1	0	0	0	0	3
はじめての漢字	0	0	0	1	1	1	3
はじめての作文	2	0	0	0	0	0	2
はじめての会話	4	0	0	0	0	1	5
日本事情2	2	1	0	0	0	0	3
伝統産業2	3	1	1	0	0	0	5
小計	22	3	2	2	2	3	34

《後期科目一覧》

科目	教 員	教 科 書	受講者
初級	今尾ゆき子・澤崎幸江 斎藤ますみ	『みんなの日本語Ⅰ』	7名
初中級	敷田紀子・澤崎幸江	『みんなの日本語Ⅱ』	9名
中級	膽吹覚・高瀬公子・ 村上洋子	『日本語中級J301』	1名
はじめての漢字	今尾ゆき子	『みんなの日本語Ⅰ漢字(英語版)』	0名
はじめての会話	中島清	『みんなの日本語Ⅰ』	9名
日本事情1	今尾ゆき子	『日本を知る』	1名
伝統産業1	中島清	プリント	13名

《後期時間割》

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
2限		日本事情1			
	初級	初級	初級	初級	
3限	中級	中級	中級	中級	
		はじめての漢字	はじめての作文	はじめての会話	伝統産業1
	初中級				
4限		初中級	初中級	初中級	

〈後期受講者数〉

科目 \ 国名	中 国	バ ン グ ラ デ シ ュ	ヨ ル ダ ン	シ リ ア	U S A	小 計
初級	5	0	1	1	0	7
初中級	7	1	0	0	1	9
中級	1	0	0	0	0	1
はじめての漢字	0	0	0	0	0	0
はじめての会話	6	0	1	1	1	9
日本事情1	1	0	0	0	0	1
伝統産業1	10	0	1	1	1	13
小計	30	1	3	3	3	40

《結び》

2005年度前期は中国、韓国、バングラデシュ、シリア、パキスタン、ポーランドの5カ国、後期は中国、バングラデシュ、シリア、USAの4カ国からの留学生が短期留学プログラムの日本語・日本事情科目及び伝統産業科目を受講した。日本語科目は初級・初中級・中級といずれも週4コマで半期8単位となっているが、彼らの殆どが1年間の留学期間で初級修了後に初中級（あるいは初中級終了後に中級）の日本語を受講して16単位を取得している。さらに、今年度から、「はじめての漢字」「はじめての会話」「はじめての作文」（各2単位）が加わり、これらの教科も多くの学生が履修した。日本語・日本事情系科目の必修単位数10単位の2倍近い単位数を取得し

たことになる。専攻科目の履修に追われる多忙な日々の中で、時間を割いて意欲的に日本語の習得に励んだ短期留学プログラムの留学生にエールを送るとともに、多様な背景を持つ彼らの要望に対してきめ細かな対応を心がけ日本語学習を支援していきたい。

(今尾ゆき子)

3. 全学向け日本語コース

《概要》

このコースは、本学に在学するすべての留学生を対象に、日常生活に必要な日本語や、大学の授業を受けられる日本語の力を養うことを目的として開講されたものである。単位は認定されない。このコースの受講を希望する留学生は、学期初めに行なわれるプレースメントテストを受験し、その結果によって受講可能な科目が決定される。2005年度前期のプレースメントテストは、4月15日（金曜日）正午より実施し、同年後期のプレースメントテストは、10月14日（金曜日）、同じく正午より実施した。

2005年度開講科目は「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本語Ⅲ」「日本語Ⅳ」の4科目である。今年度より科目名から「初級」「上級」といった具体的な日本語能力を示す言葉を使わずに、Ⅰ～Ⅳのレベルのみを示すことにした。なお、前期の「日本語Ⅱ」は受講生多数につき、その学習環境を整えるために、2クラス編成にした。また、後期の「日本語Ⅳ」は、専任教員急病のために謝金経費を本コース以外に使用する必要が生じたために不開講とした。本年度の延べ受講者数は、前期は55名、後期は56名、計111名であった。2005年度に本学に在籍した留学生は約200名であったから、約半数の留学生が本コースで学んだ計算になる。なお、受講生の学内での所属は、大学院生が最も多く、次いで研究生（大学院入学を目的とする学生）が占めている。

○前期

《科目一覧》

科目	教 員	教 科 書	受講者
日本語Ⅰ	加藤敬子・敷田紀子	『みんなの日本語Ⅰ』	8名
日本語ⅡA	高瀬公子・村上洋子	『みんなの日本語Ⅱ』	11名
日本語ⅡB	加藤敬子・敷田紀子 村上洋子	『みんなの日本語Ⅱ』	12名
日本語Ⅲ	膽吹覚・澤崎幸江	『テーマ別中級から学ぶ日本語』	9名
日本語Ⅳ	加藤敬子・高瀬公子・村 上洋子	『日本語上級読解30の素材から見えて くる日本人の今』	15名

《時間割》

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目	日本語 I	日本語 I	日本語 I	日本語 I	
2 時限目	日本語Ⅲ	日本語Ⅲ	日本語Ⅲ	日本語Ⅲ	
3 時限目	日本語 II A	日本語 II A	日本語 II A	日本語 II A	
	日本語 II B	日本語 II B	日本語 II B	日本語 II B	
4 時限目	日本語Ⅳ	日本語Ⅳ	日本語Ⅳ	日本語Ⅳ	

○後期

《科目一覧》

科目	教 員	教 科 書	受講者
日本語 I	加藤敬子・澤崎幸江	『みんなの日本語 I』	19名
日本語 II	高瀬公子・村上洋子	『みんなの日本語 II』	17名
日本語Ⅲ	膽吹覚・高瀬公子 村上洋子	『日本語の中級 J 301』	20名
日本語Ⅳ	不開講		

《時間割》

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限目	日本語 I	日本語 I	日本語 I	日本語 I	
2 時限目	日本語 II	日本語 II	日本語 II		日本語 II
3 時限目	日本語Ⅲ	日本語Ⅲ	日本語Ⅲ	日本語Ⅲ	

《むすび》

2005 年度は専任教員の急病という不慮の事態により、後期に「日本語Ⅳ」が不開講になったことを学生に謝罪しなければならない。前号でも述べたが、本コースの受講者は、日本語能力試験 1 級・2 級合格を目標とするのではなく、むしろ日常生活に必要な日本語や、大学の授業を受けられる日本語の力を養うことを目標として日本語を学んでいる。彼らは進学や就職ために日本語を学んでいるのではなく、日々の学生生活のために、あるいは日本語への興味関心から受講しているのである。ゆえに、彼らは義務としての授業参加ではなく、喜喜として参加しているのである。不開講の通知をしたところ、多くの学生から「残念です」「途中からでも再開できませんか」という声をいただいた。本コースの担当責任者として慙愧の念に耐えない。教員の急病は今後も

ないとはいえないので、こうした事態にどう対応するかが今後の課題であろう。本コースは単位認定のないコースゆえに、今回のケースでは大学当局からの経費支援は受けられなかった。しかし、大学当局が留学生の日本語教育を重視するならば、こうしたケースでは、やはり適切な支援が必要ではないだろうか。

(膽吹 覚)

4. 共通教育科目・日本語日本事情科目

〈概説〉

センター教員は、基礎教育科目・外国語科目としての日本語科目と、教養教育副専攻科目・日本語日本文化系科目を担当した。開講科目は以下の通りである。

《2005年度開講科目一覧》

科目名	単位	担当教員	教科書
日本語A	2	山中和樹	プリント
日本語B	2	膽吹覚	ビデオ (NHK ニュース)
日本語C	2	桑原陽子	プリント
日本語D	2	山中和樹	不開講
日本語E	2	今尾ゆき子	『1級対策問題集』
日本語F	2	今尾ゆき子	『1級対策問題集』
日本語G	2	山中和樹	プリント
日本語H	2	桑原陽子	プリント
応用日本語Ⅰ	2	中島清	「仕事常識」新聞記事 (読解)
応用日本語Ⅱ	2	中島清	TVドラマ (会話)
日本の文化	2	膽吹覚	『日常生活に見る日本の文化』
日本事情A	2	膽吹覚	『日本人のライフスタイル』
日本事情B	2	今尾ゆき子	『日本を知る その暮し365日』
多文化コミュニケーションA	2	敷田紀子	『異文化トレーニング』
多文化コミュニケーションB	2	今尾ゆき子	プリント (環境問題)

《結び》

開講科目の充実により、少人数クラスが可能となり、きめの細かい授業が実践できた。今後は教室の広さが、言語学習に不向きなものが多いので、今後は言語教育に相応しい教室の整備を図っていきたい。また、近年はCDやビデオを使用した教材が増加しており、そういった趨勢にあわせるためにも、オーディオ機器やビデオなどのAV機器の充実も望まれる。最後に、受講に際してはプレースメントテストを実施し、受講生の能力に応じたクラス編成を行なっている。しかし、実際は受講生の学部専門科目（主に工学部）が日本語科目と表裏の関係で同時間帯開講されていたために、受講生の能力に応じたしかるべき日本語科目が受講できない留学生が少なからずいた。

こうした状況は2，3年前から続いており、今度も解消されなかった。今後は、こうした学部科目と日本語科目の開講時間の問題について、しかるべき配慮がなされるよう共通教育委員会等で議論されることを望む。なお、2005年度は山中教員の急病により、日本語Dが不開講になり、多文化コミュニケーションCは担当者が山中教員から敷田教員（非常勤講師）に変更となり、春季集中講義として開講されたことを記しておく。

（膽吹 覚）

II 研究活動

1. 2005 年度 日本語教育学会 第 5 回研究集会報告

2005 年 7 月 2 日（土）、第 5 回研究集会が福井大学アカデミーホールにおいて開催された。集中豪雨の予報にもかかわらず好天に恵まれ、予想を大きく上回る 58 名の参加者を得て盛会となった。参加者の内訳は、大学・日本語学校関係者が約 6 割、ボランティア・学生・一般が 4 割。事前の準備段階で地域のボランティア組織に呼びかけたことや発表がボランティアの興味をひく内容であったことなどが、日本語教育関係機関の少ない福井地区にあって参加者数の増加につながったものと考えられる。

今回は研究発表が 6 件あり、そのうち教材の作成報告・紹介が 3 件、ボランティア指導者の研修活動報告 1 件、実証研究が 2 件であった。

[研究発表]

1. 英文に漢字を埋め込むー英語の「物語法」とその問題点ー
渡辺祐司(Kanji Dojo in Melbourne, Australia)
2. 日本語学習者の長音習得への試み
加藤敬子（福井大学留学生センター）
3. 日本語教育における学習ストラテジーの役割
村上知栄子（立命館大学）
4. ボランティア日本語教室スマイルにおける自発的な「指導者の相互学習」
富川和代（滋賀県立大学）
5. ふくい日本語教材「生活会話 ほやほや」作成報告
米澤幸枝（日本語の輪を広げる会）
6. マルチメディア日本語教材「売薬さん」の開発
田村綾子（東京学芸大学大学院研究生）、深川美帆（TIC 日本語学校）

教材作成報告については、英語話者用漢字教材の作成方法と指導法の紹介、ボランティア組織による会話教材の作成、日本語学校によるマルチメディア日本語教材の開発と三者三様、それぞれに興味深い発表が行われた。ボランティア指導者の研修活動報告も含めて、これらの研究発表は地域に根ざした有意義な教育活動報告であり、アンケート調査にも「地域性がでてよかった」「ボランティア教師にとって参考になった」などのコメントが寄せられた（資料 1 参照）。また、VT 法を援用した長音習得と学習ストラテジーの使用実態調査に関する発表も現場の日本語教育活動と深く結びついたもので、地区の研究集会ならではの特色であろう。今回は、パワーポイント、OHP、インターネットなど機器を駆使したプレゼンテーションが多く、発表技術の進歩が印象に残った。

最後に、広島大学大学院の白川博之助教授の講演「学習者の誤用・非用をどう考えるか」が行われた。誤用・非用を前向きに捉え、多すぎる初級の学習項目に優先順位をつけて見直しを図る必要があるという講師の指摘に関して、フロアーとの間で具体的な優先順位のつけ方や導入順序等の質疑応答がなされた。

今回の研究集会では、12時から17時の間に6件の研究発表と講演を盛り込み、時間的に厳しいプログラムとなった。近くに適当な食事施設がなく、無理に半日スケジュールとしたために、参加者の方々から不満の声が聞かれた。発表件数の問題を含めて今後の課題としたい。

(今尾ゆき子)

〈資料1〉 平成17年度日本語教育学会 研究集会—第5回— 福井
 平成17年度7月2日（土） 福井大学アカデミーホール（50周年記念館）
 アンケート集計結果（回答者15人分）

0. 回答者について

(1)	日本語教育学会員			6人
	非学会員			9人
(2)	現在日本語を教えている	大学などの学校機関	6人	11人*
		公共団体	2人	
		民間機関	3人	
		個人	2人	
	現在日本語を教えていない			3人
無回答			1人	

*教育機関の回答は複数回答あり

1. 研究集会についての感想及び要望

(1)	会の進め方 (8人回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・学会のようにベル報告方式でよかったと思います。 ・演題・演者を書いていた紙が時々そのままになっていた。 ・渡辺先生のお名前に誤字があった。 ・机、いすの数と参加者の数が合わないからか、いすの出し入れが気になった。 ・前半で一部スクリーンが見にくかった。 ・よかったと思う（2人） ・発表者、発言者が広がらないほうがいいと思った。 ・時間設定がなかなか難しいですね。早く始まるのも大変ですが、お昼の時間がないのも少し大変でした。 ・特に変更なく時間どおりスムーズに発表が行なわれていたと思います。 ・時間が少々不足であったような…。
(2)	研究発表と報告 (12人回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・報告については、北陸周辺の団体や教育機関がどんな活動をしているかがわかりよかった。 ・ボランティア活動の中から成果や活動の状況を報告された研究が有意義だった。

		<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろかったが、時間がタイトだった。 ・教科書やインターネットを使った教材は今後利用したいので、参考になった。 ・発表者の方も短い時間に大変ですが、資料などどこを示しているかをはっきり言っていただくことや、スライドへの矢印などがあればもっとよかったと思います。 ・今回はボランティア教師にとって大変参考になる演題があり、ありがたかった。 ・ボランティア団体の活動報告は興味深かった。 ・おもしろかった。特に地域性が出ていたところがよかった。 ・いろいろとバラエディにとんでいてよかったですが、時間オーバーはよくないと気がします。 ・有意義であった。 ・地域日本語教育現場からの声をダイレクトに聞くことができたので勉強になりました。 ・大変すばらしいものばかりで。
(3)	講 演 (8人回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・とても参考になりました。ありがとうございました。 ・上級レベルでも初級時にマスターしているはずの誤用が多々ある問題点のご指摘はその通りだと思う。 ・以前から興味のあるテーマで一度お話を伺いたいと思っていた先生のお話なので大変よかった。 ・白川先生のお話をもっと聞きたかった。 ・とてもわかりやすい講演ばかりでした。 ・おもしろかった。わかりやすかった。 ・よかった。 ・誤用分析について熟考できる良い機会になりました。
(4)	そ の 他 (9人回答)	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント、オーバーヘッドなどの映像が室内が明るすぎて見にくく思った。 ・クーラーがききすぎている。(2人) ・温度の設定 ・トイレやプログラム表示がされていると、一般の方もわかりやすかったのではないかと思います。 ・休憩時間が少なくて、書籍を見たりこの研究会に来ている方との交流時間があまり取ることができなかつたのは残念に思いました。

		<ul style="list-style-type: none"> ・会場設備、よかったです。 ・お昼から始まる会なのに、昼食をとれる場所がない。関係者用の控え室が空いていても部外者は使えないというのでは、弾力性がないと思う。
--	--	--

2. 今後の北陸地区での研究発表集会についてのご希望

(1)	活動内容 (10人回答) *複数回答	研究発表	9人
		講演	9人
		各機関の活動報告	6人
		ワークショップ	4人
		その他	0人
(2)	希望の講演・ワークショップ (2人回答)	・音声教育 ・漢字教育	
(3)	その他		回答者無

3. 研修会についての希望

(1)	有料でも参加したい	1人	
	無料安価なら参加したい	3人	
	1000円ぐらいまでならOK		1人
	3000円ぐらいまでならOK		1人
	金額無回答	1人	
	研修内容次第	5人	
	おそらく参加しない(参加できない)	1人	
(2)	希望の研修内容・分野・講師	回答者無	

(桑原陽子)

2005年度 日本語教育学会 研究集会 ー第5回ー

NKG

研究発表・講演

福井

日 時：2005年7月2日(土) 12:00~17:00
会 場：福井大学 アカデミーホール(50周年記念館)
(福井市文京3-9-1)
交 通：JR福井駅前からバスで「福井大学前」下車(約10分)
参加費：資料代500円
問合せ先：今尾ゆき子(福井大学留学生センター)
〒910-8507 福井市文京3-9-1
TEL&FAX: 0776-27-8424
Mail: y-ima@edu00.f-edu.fukui-u.ac.jp

受 付: 11:30~
開会挨拶: 12:00~12:05

研究発表

12:05~12:35 **英文に漢字を埋め込む** ——英語の「物語法」とその問題点——
渡辺裕司(Kanji Dojo in Melbourne, Australia)

12:35~13:05 **日本語学習者の長音習得への試み**
加藤敬子(福井大学留学生センター)

13:05~13:35 **日本語教育における学習ストラテジーの役割**
村上知栄子(京都YMCA)

13:35~13:45 休憩

13:45~14:15 **ボランティア日本語教室スマイルにおける自発的な「指導者の相互学習」**
富川和代(滋賀県立大学)

14:15~14:45 **ふくい日本語教材「生活会話 ほやほや」作成報告**
米澤幸枝(日本語の輪を広げる会)

14:45~15:15 **マルチメディア日本語教材「売薬さん」の開発**
田村綾子(とやま国際センター TIC日本語学校), 深川美帆(同)

15:15~15:30 休憩

講演 15:30~17:00

学習者の誤用・非用をどう考えるか

講師：白川博之氏(広島大学大学院 助教授)